

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書（後期）

平成27年2月16日（月）

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会作成

第2回 敷島中学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議

実施日：平成27年2月16日（月） 午後4時00分～

会 場：敷島中学校校長室

参加者：西山 豊(委員長)，長田 知子，長田 洋子，小林 淳
新海 賢一(校長)，岸本 貴志(教頭) ※五味委員は欠席。

I 学校側から提案された資料

- ・平成26年11月実施の教職員による自己評価，生徒アンケート，保護者アンケートの分析結果及び課題点と改善策を示した「自己評価書」
- ・「創甲斐教育推進大綱」に示された学校教育の充実に関する平成26年度目標数値に対する本年度前期及び昨年度の比較とその改善策
- ・自己評価シート集計結果表（前年後期，本年度前期，甲斐市全体との比較）
- ・生徒アンケート集計結果表（前年後期，本年度前期，甲斐市全体との比較）
- ・保護者アンケート集計結果表（前年度および甲斐市全体との比較）
- ・学校の様子や生徒の現状についての報告（口答）

II 協議された主な内容

学校側から提示された自己評価書，生徒アンケート，保護者アンケートの結果と分析に基づき，本校の教育活動や学校運営の状況について，前期の課題点が改善されているか，後期の分析で明らかになった改善策が適切であるか等について協議した。また，学校運営に関することや生徒の様子，今日的な教育課題等についても意見交換した。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員による自己評価については，全46項目すべてにおいてA評価またはB評価と肯定率が高く，前期と同様に概ね良好であり，日頃の学校の努力がうかがえる。また，課題に対する取り組みの実行によって改善傾向が見られる。半面，新たな課題も明確になっており，今後も学校運営の工夫改善・維持向上に向け，引き続き努力をしていただきたい。全体的には，子ども達のために教職員がよくやっている。大きな改善点はないが，今までの流れを踏襲する中で課題を改善していったほしい。

II 特 徴

- ・校長の経営方針，教育理念を全職員が共有し，学校教育目標や指導重点を踏まえた教育活動が行われている。
- ・基礎基本を重視した「わかる授業」づくりのために授業の工夫，改善に取り組んでいる。
- ・生徒指導においては，「報告・連絡・相談・確認」が組織的に行われている。また，早期発見，早期対応ができています。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・授業の工夫，改善に取り組んでいるが，生徒や保護者の要望を的確に把握し，さらに授業を充実させてほしい。
- ・今回の事件（脅迫電話）に関して，学校の対応に感謝している。ありがたい。今回の件を通して，情報の共有，危機管理の重要性を再認識させられた。防災面だけでなく，防犯面においてもマニュアルを見直すなど，一層の安全管理に努めてほしい。
- ・職員集団として，どのような学校をつくっていくのか，個々の教師が自己実現を図り，やる気を高めていくことが資質向上につながり，学校運営への参画意識を高めることになる。
- ・「学校をひらく」「心をひらく」「授業をひらく」ことを大切にしてほしい。いろいろと忙しいが，教師は授業で勝負しなければならない。
- ・P T A活動等，保護者は学校に協力的であるが，学校と家庭・地域との情報交換を密にし，一層連携を深めていく必要がある。学級懇談会，三者懇談会，地区懇談会，日常的な家庭との連絡等の機会を通して保護者の願いや要望を吸収し，教育活動に生かしてほしい。

※特記事項（意見交換の中で出されたもの）

- ・来年度，敷島地区の小中学校が合同で引き渡し訓練を実施することになったことは，保護者の声の吸い上げを学校運営に生かした一つの成果である。
- ・いじめへの取り組みについて報告を受けたが，ほとんどが解決済み（一部継続指導中）と聞き，取り組みの成果が窺える。最近はSNSを介してのいじめもある。携帯電話・スマホ・PCなど，大人が買い与えるときに危険性を子どもにしっかり教えるべき。また，大人ももっと意識を高める必要がある。
- ・生徒が一斉下校する際，まとまって帰るため，大量の自転車通学者が交通の邪魔になってしまうことがあり，クレームも時々寄せられる。学校としては登下校の交通安全を含め指導を行っているが，地域の道路（裏道）は道幅も狭く難しい問題である。
- ・生徒アンケートで，家庭学習の時間の数値が上がらないのは，塾の時間を除いていることが影響しているのではないかと。

記載責任者 甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員長

氏名 西 山 豊 ㊞